

## 日本看護倫理学会設立趣意書

看護は、人の生き死に、生き方、生活に関わる活動です。活動を通して、看護する者は看護を受ける者と相互に影響し合うため、倫理性なくしては成り立ち得ません。

しかし、人間はそれぞれ異なる文化的、宗教的背景の中で生き、異なる教育を受け、それぞれの価値観を有しているため、倫理についての普遍的な答えを求めることはきわめて困難です。だからこそ、これまで多くの議論を重ね、倫理を追究する姿勢を持ち続けてきました。そして、今後も地球環境の変化、科学技術や情報技術の進化、諸処の制約の増加などの歴史的流れの中で、現実的・予期的に向き合うべき課題が減ることはありません。

このような背景の中で、本学会は、看護倫理の知を体系的に構築することを目的として設立いたします。

すでに臨床現場では看護倫理が語られ、教育現場では倫理が教えられ、研究現場では研究倫理が整備されてきています。各種学会においては、看護の倫理的な現象に着目した発表も数多くみられています。このように、看護倫理への関心が途絶えることなく継承されてきたことはきわめて重要なことです。しかし、残念ながら、必ずしも体系的な検討が積み重ねられてきたわけではありません。看護倫理の研究方法論など、学問的探求の課題も見えてきました。これまでの議論をもとに、多岐にわたる看護倫理の知を体系化する準備性が整ってきた現在、学会を設立することにより、学問的探求の成果を発表し、討議を深めることが重要と考えています。

看護倫理は看護の質そのものを左右します。そのため、日本の文化に合った看護倫理の知を積み重ねていくことは、看護の質保証を行う上で不可欠です。知が積み重なれば、看護にたずさわる者が看護倫理の言葉を持つことになります。それは、人間をケアする専門職者として、社会に果たすべき役割を明確化することであり、その役割をよりよく遂行することにつながります。これは看護職者の社会的使命だと考えています。

このような本学会の役割と使命をご理解いただき、設立にご助力いただけますようお願い申し上げます。

平成 20 年 2 月 13 日

発起人 (50 音順)

石井トク

和泉成子

ウィリアムソン 彰子

小笹由香

勝原裕美子

小西恵美子

高田早苗

田村恵子

星和美